

蕨 工 ニュース

県立蕨崎工業高等学校 総務部
第 204 号 2021.02.12

進路決定 100%達成 あけぼの支援学校と交流 太鼓部発表会鍛麗 家庭科クラブ優秀賞

進路決定 100%達成(就職内定 100%は 17年連続)

12月25日(金)、就職希望者111名、進学希望者50名の進路先が決定し、今年度も就職内定率100%、進学希望者合格率100%を達成しました。就職に関しては、新型コロナウイルスの影響で例年より1か月選考開始が遅れたにもかかわらず、2ヶ月という短期間でこれを達成することができました。今年度の求人数は昨年度のおよそ8割(県内370件、県外720件)と伸び悩みましたが、製造業の求人は比較的好調で、半導体関連企業を中心に多くの求人をいただきました。本校生徒の就職希望者のほとんどが製造業希望のため、他校と比較して比較的影響は少なかったのではないかと推測されます。生徒が進路の情報収集を行う機会が失われた本年度でしたが、進路先の決定については学科の先生方の就職指導が徹底され、有効な支援をすることができました。また、学科・学年を中心に面接指導・学習指導に重点を置き、就職指導を進めた結果、学校紹介による一次応募の合格率は過去最高の99.1%を達成しました。将来の展望が不確実な社会の状況下ではありますが、ものづくり人材の高齢化に伴い、企業の高校生の採用意欲はここ数年上昇し、その求人活動はより活発になっています。本校では全生徒が企業実習を行うなど、地域企業との連携に重点を置き、年々上昇する企業の期待度に応える教育を行っています。本校には「ものづくり産業を支える人材育成」を行っている強みがあります。やまなしの製造業を支え地域社会に貢献する人材の船出に本校が関わったことは、とても喜ばしいことです。今年度も「進路実現に強い蕨工」の魅力をもっとアピールできたと思っています。



あけぼの支援学校との交流

本校は平成10年度からあけぼの支援学校との交流の一環として教材・教具の製作をしています。あけぼの支援学校から依頼のあったスケッチを元に課題研究木工班の生徒達が設計図を書くところから始めます。作業にあたっては、実際に使用する児童・生徒の立場になって楽しく使ってもらえるよう心掛けつつ、様々な工作機械や工具を使い、加工の難しさを生徒自身が体験しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、直接交流はせず、プロフィール票交換やビデオレターでの間接交流となりましたが、喜んでもらえる顔を想像しながら作るのは楽しい、と生徒たちは語っていました。小学部向けには木の楽器やビー玉スロープなどの遊び道具、中学部にはハンドアーチェリー台、高等部には足湯用の長椅子などを製作し、代表生徒5名が令和3年1月18日(月)教材贈呈式に参加してきました。システム系列3年3組広瀬龍生君(高根中学校出身)が生徒代表挨拶で「みなさんが安全で使いやすいように、いろいろと考え工夫しました。完成した作品を渡すことができ、とてもうれしく思います。」と感想を述べました。今回はガラス越しでの対面となりましたが、あけぼの支援学校から授業風景を映したビデオが送られてくるのが楽しみです。



太鼓部発表会

令和元年まで、太鼓部は多くの演奏会に参加してきましたが、令和2年度になり、コロナウイルス蔓延による各種イベント・発表会が中止になってきました。数少ない発表の場である「鍛麗」を実施できたことは、とてもうれしいことです。本年度の「鍛麗」はコロナウイルス感染拡大防止の観点から、太鼓部の保護者、学校関係者のみをお招きしての開催となりました。本来であれば、会場である東京エレクトロン文化ホールが満員になるほどのお客さまが来場し、年度を締めくく大きなイベントになるはずでした。イベントや大会へ参加できない中、練習に取り組むモチベーションを上げていくのはとても難しい事でもありました。日ごろの練習の成果を多くの人へ届けることができないもどかしさもありました。そんな中、本年度、唯一参加できた第41回山梨県高等学校芸術文化祭 郷土芸能部門にて芸術文化祭賞をいただく事ができたのも、日ごろの生徒の努力の賜物であり、応援して下さった多くの皆様のおかげだと思います。



今回の「鍛麗」を持って3年生は引退となりますが葦崎工業太鼓部として経験したことは生涯忘れることのない財産となることでしょう。本年度、指導・助言していただいた先生方にはこの場を持ってお礼申し上げます。

家庭科クラブ優秀賞

第68回山梨県高等学校家庭クラブ研究発表大会「ホームプロジェクト」において、2年4組杉本紫苑君(葦崎西中出身)が、「暑い夏を乗り切るためのマスクの一工夫」(感染症予防対策をふまえて)を研究発表しました。今年は感染症のため、書面発表となりましたが、第41回山梨県高等学校芸術文化祭・家庭部門では優秀賞をいただきました。本人は、この研究をふりかえり、「今年はコロナで大変だった中、マスクを作ったり、粉を使った飛沫実験を行ったり、努力が報われた気がした。この研究発表を手伝ってくれた友だちと先生に感謝して、この結果を糧にして今後に生かしていきたい」とコメントしています。研究の内容は、まず、熱中症対策として、夏休みに本人が母親と自分自身の不織布マスク内温度についてデジタル温度計を使い実態を計測しました。次に、マスク素材の違いにマスクを数種類手作りし、他フェイスシールド等6種類をマスク内温度についてデジタル温度計を使い比較実験しました。さらに、コロナウイルス対策として、マスクの飛沫防止に着眼し、4種類(国配布マスク含む)を比較実験しました。研究の展開として、いろいろな視点からの実験によりその検証を試みる事ができました。この感染症が感染拡大している現状に、家庭クラブ委員会や文化生活部の生徒有志らが協力してくれたことを嬉しく思います。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail info@nirasakith.kai.ed.jp